

ニューズレター

第8号

2017年4月1日発行



(公財) 日本テニス協会
テニスミュージアム委員会

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館
電話:03-3481-2321



2016オリンピック大会閉会式。パエスRio市長から小池東京都知事へ 提供:共同通信社



リオから東京へ

(公財) 日本オリンピック委員会 常務理事 / (公財) 日本テニス協会 専務理事 福井 烈

昨年夏のリオデジャネイロオリンピックでは、日本選手の目覚ましい活躍によって史上最多のメダル獲得となりました。

銀座でのパレード、その後のオリンピックのメディアへの露出もあり、あの興奮は今も思い出されます。

そんなオリンピックがいよいよ東京で開催されると思うだけでワクワクしてきます。

オリンピックのメダルがどれだけ人々に力を与え、国を元気にするかということはすでに証明済みです。リオではテニス界にとっても錦織選手の96年振りのメダル獲得という嬉しいニュースがありました。テニスのみならず、感動的なメダル獲得となった卓球、バドミントンでも、子供達の競技人口が驚くほど増加しています。スポーツにおいて裾野が広がることは、普及、強化にとって大切な要因です。その何よりの起爆剤がメダルではありますが、それだけに囚われるのもスポーツの本質を見失う危険があります。どうしたらメダルが獲れるかを考えると同時に、東京オリンピックでスポーツ

熱が燃え尽きてしまわないよう、文化として定着させることが何より大切な事なのです。

昨今、日本ではスポーツ庁が誕生し、スポーツ基本計画の見直しが進み、スポーツはどうあるべきかの検討が成されています。各競技団体における強化策も重要ですが、スポーツと共にある生活の定着に向けて今スポーツ界は取り組んでいます。東京オリンピックをゴールとするのではなく、目の前の大きな目標として、その先を見据えての土台固めをしていく事が重要なのです。

メダリストが偶然の産物ではなく必然となるシステムを現場は構築し、関わる全ての人が思い入れを共有し、まわりを取り巻く直接関わりはない人をも巻き込み、多くの人達が心待ちにするような東京オリンピックにするべくスポーツ環境を整えることが最大の使命であると考えます。

リオでの興奮、感動を持続しつつ、ワクワクのまま2020を迎えたいと思います。

世界への扉を開けた選手たち

全日本選手権新旧交代の歴史

共同通信編集委員 小沢 剛



男子シングルスに優勝した綿貫選手に畔柳会長からニューヨークカップが手渡された
撮影：安藤 晃

昨年の第91回全日本選手権の男子シングルスは18歳6カ月の綿貫陽介が、前年優勝の内山靖崇をストレートで破り初優勝した。全米ジュニアでベスト4に進んだ新星が、一気に国内で一番重いタイトルを獲得。世代交代の波が押し寄せるのか。1922年に始まる全日本で新旧交代の歴史を振り返る。

男子シングルスは草創期から大学生、社会人が頂点を占めてきた。ここに地殻変化を起こしたのが福井烈だ。福岡・柳川商高を出て米国に留学後、帰国して77年の第52回大会に出場。20歳4カ月で当時の最年少チャンピオンに輝いた。会場の大阪・鞆公園の遅いアンサーが彼のプレースタイルにマッチした。33歳の第2シード、倉光哲との準々決勝がヤマだった。長いストローク戦を4-6、7-5、2-6、6-3、7-5で押し切り、後は準決勝、決勝ともストレート勝ち。福井は「米国から帰り、日本の状況が分からないまま来た。無欲の勝利」と語った。

だが、このときの全日本はアマチュア選手のみ。オープン化された2年後の全日本制覇が本当の意味の「日本一」だった。会場はまたも鞆。決勝で日本を代表するプロ、九鬼潤にマッチポイントを握られながら攻めに転じて大逆転。4-6、2-6、6-4、7-6、6-0で新旧交代を完結した。「ここが僕の転機。負けていたらプロになっていなかった」と今振り返る。まさに時代の変わり目となった優勝だった。

テニスミュージアム寄附と事業活動について

総務・財務本部長兼 IR 室長 常務理事 高橋 甫



先ずもって、日本テニス協会の公益目的事業であるテニスミュージアム活動にご理解ご協力頂いている多くの読者の皆様に対し、委員会所管本部長として心より感謝申し上げます。

テニスミュージアム寄附金募集は2008年6月に逝去された宮城黎子氏の「テニス資料館設立を」という遺志による寄附金を原資に開始されたものです。これまで個人677名、83団体からご寄附を頂いて参りました。

テニスミュージアム寄附金は、特定寄附金として会計処理がなされており、その募集目論見書の用途には、JTAテニスミュージアム（仮称）の設立を目指す各種活動として、史資料の収集と整備活動、史資料の電子化とデータベース化活動、史資料の保管・閲覧室設置に向けた諸活動、情報提供活動が掲げられています。残念ながら、設置場所の確保の見込みがたっていないため、今日に至るまでテニス資料館の設置は実現していません。

来年はテニスの日本への伝来から140年目に当たり、また、2022年には日本テニス協会は創設100周年を迎えます。そうしたこともあり、昨年8月の常務理事会でテニスミュージアム寄附金活用の全体計画を作成しました。その席上、それまで7年間のテニスミュージアム寄附金

全日本最多の7度の優勝を誇り、決勝で1度も負けなかった福井を、その決勝で破って「福井時代」にピリオドを打ったのが17歳9カ月の谷沢英彦である。89年の第64回大会だった。会場は有明コロシアム。神奈川の相模工大付高3年は176センチ、78キロの体格を利用して左腕から繰り出す重いサーブで、福井の堅守を打ち砕いた。6-4、6-3、6-3。福井が腹筋を痛めていたことを割り引いても、若さの勢いが勝った。「僕はアマチュアだし、無心でやれた。日本一を争うプレッシャーはなかった。福井さんはパスの名手だが、10本ネットに出て10本抜かれることはないと思って前に出た」と攻めきった。これが現在まで続く最年少優勝記録である。



全日本選手権大会最多7度の優勝を飾った福井選手
ベースボール・マガジン社
「激動の昭和スポーツ史」より

ただ残念だったのは、谷沢の優勝がこのときだけだったこと。この後、山本育史、増田健太郎と同世代の若手が台頭、さらに鈴木貴男、本村剛一へと王座は移っていく。だが、福井の壁を突破して、日本男子に新しい流れを呼び込んだのは、間違いなく谷沢の功績と言えるだろう。

今後は、綿貫に始まるニューウェーブに時代は移っていくのか。かつて、全日本を制しても「日本一」の肩書が逆に重圧となり、国内で汲汲としていたのに比べ、ジュニア層の視線は国内にとどまっていなかった。錦織圭を見て、四大大会ジュニアを経験して世界を肌で感じ、世界が主戦場となっているからだ。松岡修造、錦織と世界のツアーで闘った選手が、全日本でその力量を国内選手に示してこなかったのは、非常に物足りないが、全日本が「世界への扉」となる構図は今後も続くだろう。

女子は、戦後長く続いた加茂幸子、宮城黎子の「2強時代」を塗り替えたのが、67年に16歳で優勝した沢松和子だ。その15年後、17歳の岡川恵美子が初優勝し、翌年は15歳の雫子牟田明子が岡本久美子を6-3、6-0で破り、史上最年少優勝を遂げる。88年、有明コロシアムで、15歳の沢松奈生子が初優勝。その後は伊達公子、杉山愛らが「全日本タイトル」を手世界へ羽ばたいた。女子は国内で男子と練習を重ねることで、比較的世界に近い環境を得られる利点があったと言える。

累計が3,919万円となり、デ杯、フェド杯DVD制作等の史資料編集事業、ニューヨークカップを含む復元事業、ウェブミュージアム関連事業、展示活動等に1,726万円が使用され、JTA予算を加えた約3,100万円がテニスミュージアム事業に支出されたことが報告されました。同時に、監査室長よりテニスミュージアム基金に関しての監査報告がされ「テニスミュージアム委員会の諸活動が機関決定手続きに基づいて行われており、その支出も資金管理上の問題はない。テニスミュージアム委員会の設置と活動がなければ、古い歴史を語る大切な史資料の多くが永遠に失われるリスクがあった」との報告がされました。

このように、未だ資料館の設置には至らないものの、テニスミュージアム寄附金はテニスミュージアム事業で重要な役割を果たしています。又、そうした事業の実施を可能としているのは17名のテニスミュージアム委員によるボランティア活動に他ならず、委員各位の献身的な活動にこの場をお借りして敬意を表させていただきます。

本年11月からは東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、有明テニス施設の改修が開始されます。施設所有者である東京都による改修後の有明テニスの森公園のあり方についての具体的な検討は始まっていない模様ですが、オリンピック会場としての有明のあるべき姿に

については、日本テニス協会としての考えを東京都そして組織委員会にお伝えしているところであり、懸案のテニスミュージアムのスペース確保を含むオリンピック・レガシーとしての有明テニス施設についても、日本テニス協会として独自の腹案を検討する時期に来ていると考えています。

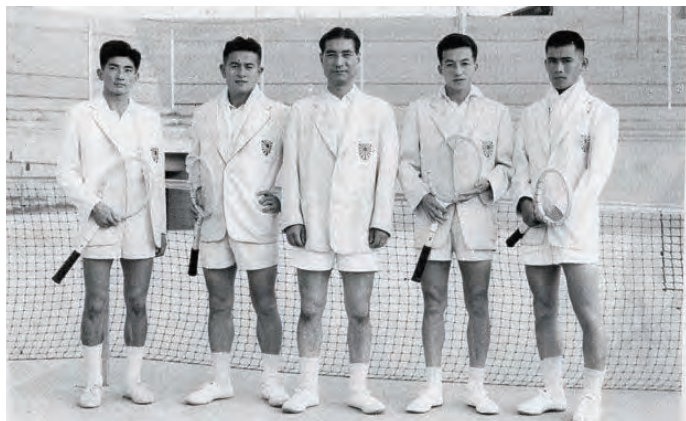
先のテニスミュージアム寄附金活用の全体計画でも、今後の寄附金使途は、有明テニス施設の改修による、テニスミュージアムスペース

の確保を前提としたものと位置づけ、①確保されたスペースのインテリア作業、展示棚等の設置、パネル等の制作②史資料の保管と整備③展示物の制作に供するという方向性を打ち出しました。昨年11月に制作されたDVD「全日本テニス選手権90回の軌跡」もこの全体計画における事業の一環として実現に至りました。

以上、寄附金の募集が9年目に入るこの時期に、テニスミュージアム寄附と事業活動について、ご報告申し上げます。

名選手逝く ～加茂公成、石黒修～

1956年・1957年デ杯選手 岡留恒健



1957年デ杯チーム。左から岡留・加茂・隈丸監督・宮城・松浦

石黒修さんとの思い出を書いていたら、先輩の加茂公成さんの訃報が夫人の千恵さんから届いた。1人又ひとり、テニス界に夢を与えた人が旅立って逝く。

想えば加茂さん宅で私は「3男坊」と呼ばれていた。目上も目下も同じ命に見える私は部の活動に馴染めず、或る先輩が「あの時お前は部を脱走した」と表現したように、私は故郷に帰ったりテニスへの情熱を失ってバロック音楽と酒に浸っていた。3男坊とは、そんな私を加茂さんの父君が「練習においで」と家に引き入れて下さって以来の私の呼び名だ。

加茂さんや励ましてくれる先輩のお蔭で、私はデビスカップ選手にも選ばれたが公成さんと私とは横綱と大関ほどの差がある。それでも1度、片岡杯の複で加茂さん宮城さん組にフルセットで勝っている。何とお2人が全米選手権の複での優勝の後だ。私のパートナーはデビスカップ同僚の松岡功さんだった。

私は卒業時にテニス界から遠ざかり、営々と地球環境とユニセフ普及に没頭してきたが、3男坊の絆は60余年、時が経つほど深まっている。

テニスもできる平和で美しい地球が、続く世代に残るのを祈って私が書いた「人類の選択のとき」という生命環境の危機の本を、英訳して世界に訴えるように奨めた



国際線コックピットを訪れたユニセフ親善大使オードリー・ヘップバーンと筆者

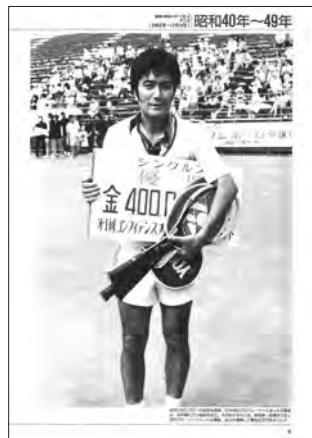


1956年。前列左からデ杯日本チーム(松岡・岡留・加茂・宮城・原田監督)津島寿一会長。右側インドチーム。岡田正一副会長

のも、加茂公成・千恵さん夫妻だ。

加茂さんも心配したように、生命環境の劣化はテニス界も他人事ではない。英訳電子本の名はアマゾン版「1980, Growth beyond the limits of the Earth」、一読の価値があると緒方貞子さんが推薦。U-tubeへ投稿も考慮中だ。

そして石黒修さん。石黒さんの入部は私が慶応大学3年の時だ。奔放な所もある彼が部生活に悩むことなくテニスに打ち込めるよう、留意している内に親しくなった。早朝から日暮れまで私と休みなく練習試合をした日なども、彼の快い思い出になっていたようだ。



1974年第1回プロトーナメントに優勝した石黒修

ベースボール・マガジン社「激動の昭和スポーツ史」より

えない昔話だが、晩年には洗礼を受けたと聞いている。

石黒さんがプロになる時、私はテニスを武道に比して考えているので賛成しなかった。広告のために在る様なスポーツ界の現状を想うと石黒さんのプロの夢はもっと高かったのではないかと。聞く機会が無いまま逝ってしまったのが悔やまれる。

想えば私の生涯で多くの素敵な夢を実現できたのは、テニスを通じて出会った得難い友人の心の支えがあったからだ。テニスは私の心の故郷である。



石黒修選手 撮影：越智和夫

全日本学生選手権の緒戦の試合中、2年生の石黒さんが私を呼んでいるとの連絡で行くと、下位選手に負けかけ色を失っていた。見栄を捨て相手より1本余計に返すよう助言したら立ち直って勝ち残り、準決勝にまで進出してきた。

石黒さんは学校を卒業してからもテニスを続け更に強くなり、8回もデビスカップ選手として活躍することになった。

悩み事も時折相談にきたので、私の好きなイエスの生き方を話したりした。それが影響したとも思

後世に残る歴史を蘇らせて

テニスミュージアム委員長 小田晶子



皆様、お障なくお元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

平成14年に「テニス資料館準備室」を発足させて、早くも14年が経過いたしました。この間、延べ1,700人以上の方々から、ご支援と貴重な史資料をご寄贈いただきました。有難く厚く御礼申し上げます。纏まった資金を使わせて頂き「全日本テニス選手権90回の軌跡」DVDとして、後世に残る歴史を蘇らせることができました。レジェンド達のプレー等もお楽しみ頂ければ幸いです。

今後の課題は、webテニスミュージアムの充実、ご寄贈いただきました史資料の一部公開、所有する総ての史資料のデータベース化、レジェンドのレリーフ作成等など、2022年のJTA100周年に向けて準備をして参ります。

今年の11月初旬から、愈々有明テニスの森公園の改修工事が始まる為、毎年行なって居りましたJapanOpen歴史展示及び有明事務所ホールの常設展示は、暫くお休みさせていただきます。

末筆ながら、皆々様のご健勝とご活躍を祈念いたしますと共に、変わらぬご支援を賜ります様、切にお願い申し上げます。

楽天ジャパンオープン2016展示

(2016.10.3~10.9、於・有明コロシアム 2階ロビー)



▲アンティークラケットと各メーカー出展のラケット



全米優勝カップ
宮城淳・加茂公成

デ杯レプリカ

熊谷・布井・佐藤(次)・福田
選手等のサインボール



▲大勢の方にご覧頂きました



▲日本の五輪テニス史やパラリンピック、その他トピックスをパネルで展示



全日本テニス選手権大会優勝者一覧

大会	男子シングルス	女子シングルス	男子ダブルス	女子ダブルス	男子混合ダブルス
第1回
...
第100回

▲全日本テニス選手権歴代優勝者一覧を展示



三菱 全日本テニス選手権大会展示

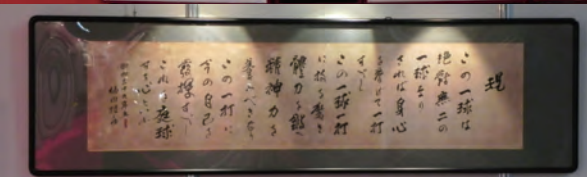
(2016.10.22~10.30、於・有明コロシアム 1階ロビー)



◀中央：ニューヨークカップ

▼男女単複混合優勝カップ

▼勝木光氏 Baby Steps 原画



▲福田雅之助氏の書「この一球(規)」
寄贈者：中村義久氏



◀テニスミュージアムコーナー受付



日本で最古のテニストーナメント

軽井沢トーナメント100年の式典と展示

テニスミュージアム委員／軽井沢会会員 越智和夫

軽井沢テニストーナメントが100年目を迎えた。

「軽井沢トーナメント」は全日本選手権が開催される大正11年の5年前、大正6年に第1回が開催され、京都大学の軟式の名手で硬式も強かった羽田武内氏が優勝している。そして優勝後に熊谷一彌氏とのエキジビションが盛り上がったとの記述も残っている。第5回からは原田武一、福田雅之助、三木龍喜、青木岩雄、布井良助、太田芳郎、佐藤俵太郎、上原増雄……と全日本優勝者と重なっており「軽井沢トーナメント」が全日本選手権の前哨戦であったとも記述され、日本で一番古いトーナメントである。

「軽井沢トーナメント」は女子シングルスも大正12年より始まりこれも全日本選手権より1年早い開催で優勝者はどちらも黒井梯子である。

終戦後も昭和21年から再会され、村上麗蔵、鶴原謙造、石黒修、長崎正雄、河盛純造……、女子では宮城黎子、井上早苗、保田多美子、黒松和子、村上智佳子、畠中君代……など全日本優勝者やテ杯選手が出場し優勝している。

その後もレベルの高いトーナメントとして現在に至り、昨年100回目を迎えた。また最近ではテニス人口の高年齢化で軽井沢トーナメントのベテランの種目も増えている。

海外への登竜門となる春のフォーチャーズ大会、秋のベテラン大会、と軽井沢会のコートはにぎわって居ます。

また、軽井沢のテニスで忘れられない出来事は昭和32年の両陛下下の出会い、皇室との関係です。部内トーナメントでの出会いや、両陛下そろっての軽トー出場、皇太子殿下下の軽トー出場、秋篠宮のジュニア部門での優勝等です。

現在も夏の終わりにたびたびご来臨になり思い出のコートでプレーを楽しまれています。

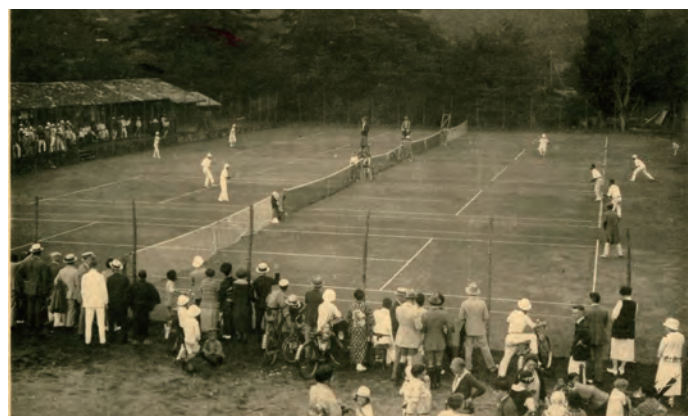
昨年5月には両陛下のご臨席を賜り、100年の式典と展示が六本木ヒルズで開催され多くのテニス関係者が出席しました。



▶六本木ヒルズ 展示会場入口



◀畔柳 JTA 会長に展示物の説明をするテニスミュージアム委員



▲戦前の軽井沢トーナメント



▲昭和30年代前半の軽井沢トーナメント表彰式

平成28年度 特定寄附金 テニスミュージアム※ 会計報告書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

平成27年度末基金残高	21,930,440円
平成28年度寄附金額 (H29.2.28まで)	4,145,000円

全日本テニス選手権90年の軌跡製作費	2,368,980円
--------------------	------------

平成28年度委員会活動費 JTA 予算 369万円

主な活動 ジャパンオープン・全日本選手権歴史展示事業
軽井沢トーナメント100周年記念展示協力
史資料の収集・整備、データベース化作業
ニュースレター発行、webテニスミュージアム更新
委員会・全体会議開催

〈掲示板〉

- テ杯「甦る田園コロシアムの熱戦」DVD、フェド杯「日本女子選手・栄光への道のり～フェデレーションカップの時代～」DVDをご希望の方はミュージアム委員会にお問い合わせ下さい。「日本のテニス」、テニス絵葉書（3種類）は、JTAwebサイト出版物領布で販売しています。 URL:<http://www.jta-tennis.or.jp/>
- 古いラケット、文献等のテニス史資料の情報、又、住所、姓名の変更も、JTAテニスミュージアム委員会Email:museum@jta-tennis.or.jpまでお知らせ下さい。



特定寄附金「テニスミュージアム」へのご寄附のお願い

振込先口座名：公益財団法人日本テニス協会 寄附金
金融機関：ゆうちょ銀行 口座番号：00130-0-504638
振込先口座名：公益財団法人日本テニス協会 テニスミュージアム寄附金
金融機関：三菱東京UFJ銀行 支店名：渋谷中央支店 口座番号：(普通) 0272922

クレジットカードによる寄附は、JTAホームページ募金サイトから直接お申込み頂けます。

■テニスミュージアム委員会■

- 委員長：小田晶子 副委員長：矢澤 猛
 常任委員：後藤光将、武内 勝、福田達郎、小林やよい、越智和夫、小川あさ子、西澤太郎
 委員：宮城 淳、我孫子和夫、市山 哲、小沢 剛、川地 孝、栗岡 威、吉井 栄、山森正樹